

明倫館だより

第46号
平成18年8月1日発行
発行人 井上晴雄
財団法人 南豫奨学会
南豫明倫館
〒184-8586
小金井市中町 4-18-26
TEL 042-383-9835(代)

暗室で
フィルムは回る
夏の間
岡本光平
ながながと
生きゆくものへ
秋の空
谷雄介
明倫館俳句会

平成18年度主要行事予定

(平成18年8月1日現在)

平成18年

- 4月 1日 平成18年度新入寮生10名入寮
- 3日 学生バーベキュー大会
- 16日 寮則説明会
- 23日 平成18年度第1回常務理事会
新入寮生歓迎会
- 5月 5日 学生フットサル大会
- 24日 監査役会開催
- 6月 1日 洗濯機・学生用トイレ修理
- 3日 平成18年度第1回理事会開催
19年度寮費5万5000円に決定
- 5日 植木剪定開始
- 9日 ボイラー補修
- 7月 1日 自治委員会総会開催・赤松洸多君
(中央・総合政策学部3年)委員長就任
- 7日 平成18年度第2回常務理事会開催
- 21日 定期ガス点検
- 8月 6日 夏休み開始
- 20日 夏休み終了
- 25日 愛媛県4寮懇親会開催予定
- 10月 5日 松山・OB会開催予定
- 6日 19年度南豫明倫館入寮説明会開催予定
宇和島OB会開催予定
- 7日 父兄懇親会開催・奨学生候補者面接・
高校長懇親会開催予定

平成19年

- 11月23日 第3回常務理事会開催予定・18年度寮祭
- 12月 9日 第4回常務理事会開催予定
- 26日 冬休み開始
- 1月 9日 冬休み終了
- 20日 第2回定例理事会開催予定
- 2月10日 第1次入寮願書締切り
- 18日 第5回常務理事会開催、歓送会開催予定
- 3月10日 第6回常務理事会開催予定
- 16日 入寮面接試験実施(於宇和島市)予定



次代を担う 新鋭一〇名が入寮

平成十八年度 南豫明倫館入寮生
(氏名・大学学部名・出身地、一 自己紹介、
二 将来の抱負)

- 井上 晋太郎(拓殖大・政経学部、大洲市)
一 特技は書道です。大学ではダンス・語学・国際問題など、色々なサークルに所属しています。よろしくお願ひします。
二 大学でできるだけ多くのことを学び、将来は県庁か広告会社に就職したいと考えております。
- 山家 遼(東京工科大学コンピュータサイエンス学部、西予市)
一 大学ではフットサルサークルに入ろうと考えています。東京ではたくさんさんの経験をしたいです。よろしくお願ひします。
二 まだはっきり決まっていりませんが、大学院まで進学し、たくさん勉強したいです。四年間で明確な目標を見つけたたいです。
- 久保 文亨(専修大学・商学部、宇和島市)
一 小学校からずっとサッカーをしてきました。なのでサッカーは見るのもするのも大好きです。よろしくお願ひします。
二 大学でしっかり勉強をし、公務員になりたいと思っっています。
- 住田 篤志(日本大学・経済学部、宇和島市)
一 ぼくは、歴史と旅行が好きです。色々な所を見て行きたいと思っっています。迷惑ばかり掛けると思いますが、よろしくお願ひします。
二 大胆ですが、代議士になりたいと思っっています。

- 丹 峻也(東京工科大学バイオニクス学部、宇和島市)
一 サッカーをするのも見るのも好きです。後、TVゲームも。
二 将来、肌もちのよく、化粧おとししやすかつ、おちにくい日焼け止めクリームを研究したい。
- 廣瀬 克彦(明治大学・理工学部、宇和島市)
一 宇和島南高校出身です。大学では、学業に専念し、単位を落とさず頑張っっています。よろしくお願ひします。
二 将来は通信系の仕事につき、なにかものを開発していききたいです。
- 古谷 直彦(神奈川大学・法学部、宇和島市)
一 宇和島南高校出身の古谷直彦です。四年間よろしくおねがいします。
二 四年で大学を卒業して、公務員になって三十才までに結婚したいです。
- 葛本 祐平(専修大学・法学部、鬼北町)
一 宇和島南高校出身です。体を動かすことと、パチンコが好きです。よろしくお願ひします。
二 公務員になりたいと考えています。大学の講座でしっかり勉強していききたいと思っっています。
- 井上 拓哉(早稲田大学・第一文学部、愛南町)
一 南宇和高校出身です。指定校で入ったので

います。色々な人や物に出逢い見聞を広め、国政を考えられる人間になりたいです。

勉強をがんばっつてしようと思っっています。フットサルのサークルに入ろうと思っっています。
二 将来の夢はまだ決まっつてません。大学生活の中で考えていききたいと思っっています。人と接する仕事に就きたいです。

亀井 悠平(大正大学・人間学部、愛南町)
一 釣りが趣味な優しい性格だと思っっています。卓球部に入っつてるので頑張っただけ頑張ります。
二 一応教員になりたいと考えています。自分の夢がかなうまでがんばりたいと思っっています。

在寮生 大学・出身校別一覧

| 平成18年度 | | 4月1日現在 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|------|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|
| 在籍大学 | 出身高校 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 計 | |
| 東大 | 松山 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| 北予 | 松山 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 予 | 伊 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| 東大 | 八幡浜 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 | |
| 東大 | 宇和島東 | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 22 | |
| 南大 | 宇和島南 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 13 | |
| 北予 | 北宇和 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| 南予 | 南宇和 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | |
| 済美 | 済美 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| 愛光 | 愛光 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| 奈良高専 | 奈良高専 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| 計 | 計 | 4 | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | 1 | 9 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 4 | 1 | 1 | 4 | 1 | 4 | 1 | 1 | 2 | 1 | 5 | 2 | 1 | 55 | |

平成18年度 上期自治委員会

- ▷委員長 赤松 洸多
- ▷情報委員 久保田 圭
- ▷風紀委員 山家 遼
- ▷整備委員 二宮 佳久
- ▷企画委員 上田 陽平
- ▷広報委員 橋井 裕太郎
- ▷会計委員 中山 慶太
- ▷委員 谷 雄介
- ▷委員 松下 祐樹
- ▷委員 亀井 悠平
- ▷委員 友岡 清志

財団法人南豫奨学会

「奨学金支援会」だより

御礼並びにさらなる御支援を！

財団法人南豫奨学会

奨学金支援会会長 伊達 宗禮

平成一八年度、奨学金支援会の募金状況は左記のとおり。二八年七月二五日現在で二一六万円に達しております。各界皆様方の厚い御支援に感謝申し上げますと共に、目標とする三百万円にあと一息の状況です。引き続きいっそうの御芳志を賜わりたく、よろしくお願ひ申し上げます。郵便振込番号 〇一五〇一〇二一九六五三三

名義 「南豫奨学会奨学金支援会」

銀行口座 伊予銀行新宿支店普通預金口座

一六〇六三九

名義 「財団法人南予奨学会奨学金支援会」

委員長 松本 三郎

平成18年度支援会申込者数並びに入金状況 (平成18年7月15日現在)

| | 申込者数(人) | 募金額(円) |
|--------|---------|-----------|
| 理事・監事他 | 14 | 400,000 |
| 評議員 | 34 | 680,000 |
| OB | 34 | 460,000 |
| 現父兄 | 15 | 170,000 |
| 一般 | 22 | 250,000 |
| 法人 | 3 | 150,000 |
| 市町村 | 1 | 50,000 |
| 合計 | 123 | 2,160,000 |

十九年度より 寮費改定について(お知らせ)

平成十九年四月より現行寮費月額五万円を五千円値上げさせていただきます。月額五万五千円に改定させていただきます。

平成五年以来十三年間現行寮費を維持してきましたが、建設以来二十年を経過して、諸経費の増加、設備更新、修繕などに備えるための措置です。なにかと負担の多い折誠に恐縮ですが、ご理解を賜りたくお願ひ申し上げます。

平成十八年八月一日
財団法人南豫奨学会 理事長 伊達 宗禮

ウルドゥー語劇団

谷脇 慎太郎
東京外国語大学三年

八月六日、毎年この日には平和記念式典が行われている。この行事を特別な思いで見ると減っているのだから。私たちは戦後の世代だ。小学校には必ず配架されている「はだしのゲン」。この「ゲン」を、今や核保有国となったインド・パキスタン社会に見せよう、ということから、インド巡業公演の計画が動き始めた。

私の通う東京外国語大学では十一月に外語祭が催され、一年生は各専攻語地域の料理店を開く。二年生は専攻語によって劇を演じる。これが「語劇」だ。私は三年前、幸か不幸かこのウルドゥー語科に入学した。日本ではまったくといっていいほど知名度のないこの言葉を今は舞台上でしゃべっている。授業よりも、特に社会との接点となる課外活動に熱を入れるウルドゥー語科は料理店、語劇の両方に本場の「味」を求める。

そして昨年の元旦から始まったウルドゥー語劇団は外語祭とは違う枠で活動する。選考の末、キャスト十一人、スタッフ二人、に絞られ、そしてウルドゥー語の教授であり座長と名乗る、麻田豊先生を含め、総勢十四名の語劇団となった。今回は大阪外国語大学のヒンディー語劇団も同行し、二十二名の大所帯でインドの十都市を回り、十二回の公演が予定されていた。外語大の特質というべきか、ここには男が少なく、この語劇団の学生十三名の中で、男はたったの四人。人数にあいまって、劇団の中では男のほうがかーストが低いこともしばしば。渡航中は二十三個のスーツケース運びに加え、行く先々の宿泊部屋に没没する、一円玉ぐらいはあろうかというインドサイズのアリアや、ゴキブリを退治するのも男だ。

出発は八月二十八日、それまでは四月から七月の間、週一回のペースで台本の読み合わせや発音指導、立回りの稽古を続けた。試験期間も終わる七月の末からは週六日、朝は九時半から夜八時まで、みっちり進められた。八月も中旬になると、約一時間ほどの劇の全体を通ず稽古を始めた。途中、プロの演出家に四回ほど来ていただいた事もあってか、劇自体は滞りなく進むようになり、台詞の発音にも次第に磨きがかかった。

しかしやはり、この少人数で「はだしのゲン」となると必然的に一人一人の担当する役は増



▲空港での集合写真

える。私も前半三十分の間に、麦(ミーム)、扉(ミーム)、いじめっこ、憲兵、鯉(ミーム)、吉田のおっさん、と役は移り変わり、舞台裏では次の場面に遅れまいと、衣装替えが慌ただしく行われる。この「ミーム」とはパントマイムのことで、基本的には黒の細身の上下を着、人間ではない、細い鼻などを象徴的に表わす役であり、この舞台上に独特の雰囲気を与えている。

いよいよ八月二十八日、成田に集合した皆の顔には若干の疲れがみえるが、空港のアナウンストともに、どこかひき締まった空気が漂う。チェックイン時には、前にならんでいたインド人に声を掛けられた。その日は語劇団で作った、ウルドゥー語のかかれたTシャツがどうやら気になったようだ。今回の劇公演に至るまでをたどったウルドゥー語で話していると、後ろから麻田先生が入ってくる。二人は空港の騒音に負けない大声で話し、しまいはアドレナスを交換していた。「インドで何か困ったらいつでもくれ！」インド人は一度話せば友達なのである。(続く)



▲舞台上での集合写真

明倫館俳句会

谷 雄介
早稲田大学政経学部三年

明倫館俳句会を始めたのは、ほとんど僕の気まぐれだった。僕は俳句を作っていて、何となく皆で俳句を作ると楽しいんじゃないかなという思いがあり、周りの人間をずるずると引きこんでいったという感じ。最初は三人でほぼそと始めたのが、今では十人以上を集める句会になっている。

句会とは、簡単に言えば「俳句の品評会」である。明倫館俳句会の進行の様子を簡単に説明すると、まず、題を三つ発表する。題は「夏空」「さくらんぼ」といった季語であることが多い。つづいて、その題を使って実際に俳句を作ってもらおうのだが、その際に「俳句を五分で一句作れる魔法のテクニク」を用いる(詳細は割愛)。それから、皆が短冊に書き付けた俳句をシャッフルして、「清記用紙」と呼ばれる別の紙に書き直す(こうすることで、作品の匿名性が保証される)。最後に、それぞれの好きな作品について皆が点数をつけてゆき、たくさん点数を獲得した俳句が勝ち、というような流れになっている。もちろん、皆の点数をたくさん集めた俳句が「いい俳句」とは限らないわけで、その後の選評の時間で、たくさん点の入った俳句が皆からダメ出しを受けたり、あるいはあまり点数のよくなかった俳句が、誰かの批評によって皆に再評価されるということがまま起こりうる。

さて、句会に実際に出された作品を見ていくことにしよう。まずは、寮生活を詠み込んだ俳句。寮食は今日も欠食夏の空 モリエンテス さくらんぼ明倫館の前に主事 ラジヲ

つづいて、大学での生活を読み込んだ作品。授業寝る終わって起きる南風 アンドロリー 南風最近増える自主休講 キャッツ 学校を四日も休み蛇毒 ナマケモノ

無論、男子寮で行われる句会なので、もうどうしようもなく品のない俳句がつきつきに出てくる。それもまた楽しい。密室であんなことした夏座敷 スミスミ

ホレホレ?ココが良いやろ夏座敷 ドラゴン賞
ジャンプ読むエロ本も読む燕の子 OK

また、時にはいかにも格調高い作品が出てきて一同を驚かせることもある。

満月は東の空に夏座敷 飛び地

明倫館俳句会のモットーは、とにかく「俳句を楽しむ」ということ。かたくりしい礼儀作法は必要ないし、作品への制約もほとんど存在しない。自分の興味のあることを自分の詠みたいように詠んでもらう。

「表現する」ということは、本質的に楽しいことだと僕は思う。しかし、世の中に自分を何かの形式に仮託して表現するということができて人間が果たしてどれだけの文学か。文学にしろ、美術にしろ、音楽にしろ、一定量の準備が必要だし、一定量の鍛錬を必要とする。そういう意味で、俳句という文芸は、「表現者」へのハードルがかなり低い文芸であると言える。鉛筆と紙があればいい。

もう一つ、俳句が「発表者」となることについても容易な表現手段であることを強調しておきたい。小説を書いたり、ギターで曲を作ったからといって、「発表」という段階に踏み出すには、これまた多くの準備を必要とする。それ以上に発表に際しての「恥じらい」を禁じえない人々が多いだろう。その点、俳句には「句会」という発表の場があらかじめ用意されており、その参加者は皆が読者であると同時に作者であるわけだから、恥じらいも大幅に軽減される。とにかく、俳句は楽しい。明倫館俳句会、是非気軽にご参加ください！

競ひ合ふものこそよけれ夕紅葉 雄介

編集後記

▼お知らせの通り、明年度より現行寮費を五万五千円にさせていただきます。誠に心苦しい限りですが、諸般の事情に備えての判断ですのでなにとぞご了承下さい。

▼部活が盛んです。フットサル、テニス、卓球、それに明倫館始まって以来の初めて句会が開催されております。今号はその模様をレポートしてもらいました。

▼今年も富士登山があります。